

口腔科学演習

Seminar of Oral Science

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 社会系・形態系・機能系・病態系分野
- ③ 口腔保健
- ④ 口腔組織
- ⑤ 脳機能
- ⑥ 病因論

授業概要

健康長寿に寄与することを目的に、疾病要因を形態、機能、病態、社会的側面から学際的に究明する科学と技術を修得し、俯瞰的に生命現象をとらえる能力を身につけることを目的に開講する。形態系歯学では、組織標本作製と顕微鏡検査の使用、口腔内微小循環を修得する。機能系歯学では口腔における抗加齢医学、口腔と脳機能について修得する。病態系歯学では、病因論における環境因子の影響、唾液腺産生物質と遠隔作用のメカニズムを修得する。社会系歯学では、現在の主要課題である根面う蝕の予防と健康格差の是正を修得する。以上により口腔科学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。

授業科目の学修目標

口腔科学における各分野の特徴を生かした演習を行うことにより、疾病要因を形態、機能、病態、社会的側面から学際的に究明する科学と技術を修得し、俯瞰的に生命現象をとらえる能力ならびに口腔科学における俯瞰的な判断を行う素養を身につける。

授業計画

- ① 根面齲蝕の予防について演習する。 3コマ 山本龍生
- ② 口腔保健の地域格差について演習する。 3コマ 山本龍生
- ③ 組織標本の作製法、顕微鏡検査の理論と実践について演習する。 3コマ 高橋理
- ④ 健康増進と口腔内微小循環について演習する。 3コマ 松尾雅斗
- ⑤ 口腔における抗加齢医学について演習する。 6コマ 高橋俊介または吉野文彦
- ⑥ 口腔と脳機能について演習する。 3コマ 槻木恵一
- ⑦ 病因論における環境因子の影響について演習する。 3コマ 槻木恵一
- ⑧ 唾液腺産生物質と遠隔作用のメカニズムについて演習する。 3コマ 槻木恵一
- ⑨ 総合演習を行う。 3コマ 槻木恵一

教科書および参考書

スタンダード生化学・口腔生化学、学建書院、池尾 隆 他
非侵襲的検体検査の最前線、シーエムシー出版、槻木恵一監修

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

学部学生時の口腔科学に関する知識、ならびに疾病要因の形態的、機能的、病態的、社会的側面に関する技能が必要である。英語を使用するので、英語のトレーニングを怠らないことが求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 根面齲蝕の予防について説明できる。
- ② 口腔保健の地域格差について説明できる。
- ③ 組織標本作製し、顕微鏡検査の理論を把握し検査を行うことができる。
- ④ 健康増進と口腔内微小循環を説明できる。
- ⑤ 口腔における抗加齢医学を説明できる。
- ⑥ 口腔と脳機能について説明できる。
- ⑦ 病因論における環境因子の影響を説明できる。
- ⑧ 口腔科学の理論を説明できる。
- ⑨ 総合演習を実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポート フォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	30%	60%	0%	10%	0%

評価の要点

- ・授業項目ごとに理解度を確認するためレポートと口頭試問を行う。
- ・成果発表は、本演習で身についたことについての発表・質疑応答の内容を総合的に評価する。
ディスカッション・ディベート・課題発表：各20%=60%

理想的な達成レベルの目安

口腔科学演習の理想的な達成レベルは、総計として80%以上とする。